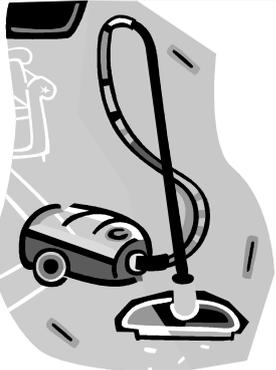
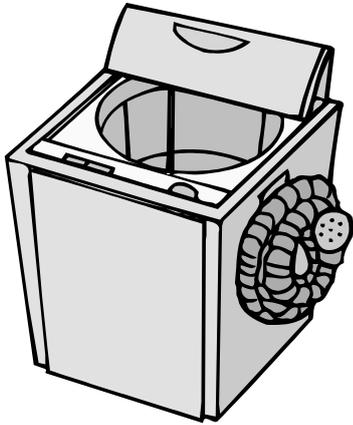


ここは昭和 39 年（1964 年）5 月 10 日、湖東の愛知川下流に近い彦根市本庄町の富江富吉さんのお家です。結婚までもない若夫婦と生まれたばかりの赤ちゃん、おじいちゃんおばあちゃんの 5 人ぐらしです。

富江さんのお家で、今と昔の暮らしをくらべてみましょう。



| 今（平成）の暮らし | | 昔（昭和）の暮らし |
|---|--|--|
|  | <p>朝です。おはよう。 顔を洗って、歯みがきをする時、洗面所の水道の蛇口からジャーッと水が出てきます。</p> | <p>富江家には水道がありません。どこで顔を洗うのかな？ 歯ブラシをさがしてみよう。</p> |
|  | <p>朝ごはんを作ります。台所のガスレンジで調理したり、ごはんはすい飯器でたいたりします。</p> | <p>富江家では、どこでどうやって料理を作るのかな？ まな板はどこ？ ごはんはどこでたくの？</p> |
|  | <p>食べた後の食器を洗います。流し台の水で、スポンジに洗ざいをつけてお皿を洗います。</p> | <p>富江家では、どこでどうやって洗うのかな？</p> |
|  | <p>そうじをします。電気そうじきで、ゆかのゴミを吸い取って、ゴミはゴミばこへ。</p> | <p>富江家では、どうやってそうじしたのかな？ ゴミはどうしたでしょう？</p> |



せんたく
洗濯をします。
ぜんじどうせんたくき
全自動洗濯機に洗濯
ものを入れて、スイッ
チを入れるだけです。
だっすい
脱水もできます。

富江家では、
どこでどうやって洗濯したのかな？



トイレに行きます。
ウンチもおしっこも
トイレに水といっし
よに流します。

富江家のトイレはどこかな？
家の外にも中にもあるよ。



お風呂に入ります。
あなたのお家では、
何でお湯をわかしま
すか。ガス？電気？

富江家では、
どんなふうに水を入れて、
どうやってわかしたのかな？

この他に見つけた、今と昔の暮らしのちがうところを書こう。

○はじめに

- ・このシートは、教育の目的で使うときのみ、輪転機等による増し刷りが可能です。ただし、著作権は琵琶湖博物館にありますので、一部を転載あるいは切り貼りする場合は、©琵琶湖博物館と記してください。シートをそのまま印刷する場合は、©琵琶湖博物館は入れなくても結構です。
- ・どのシートも1時間近くの時間がかかりますので、どれか1種類に絞った利用をおすすめします。
- ・たくさんの児童が、全員が同じ順で設問を解いていくと混雑が予想されるので、グループごとにとりかかる問題を変えた方がよいでしょう。20名程度の人数であれば、先生が児童・生徒を誘導しながら、設問ごとに解説を加えることも可能です。

1 どこで顔を洗うのかな？

- ・家の外にあるカワヤのカミナガシの水で、口をすすいで顔を洗います。カワヤは、集落の中を流れる水路（カワ）の水をとりこんだ洗い場で、カミナガシとシモナガシという二つの水槽にわかれています。自噴井戸の水を受けるカミナガシの水は飲み水に、水路に面するシモナガシの水はお茶わん洗いなどに、泥のついた野菜などはカワの水を使うなど、使い分けをしていました。

2 どこでどうやってごはんを作るのかな？

- ・野菜を洗ったり切ったりするのはカワヤで行います。野菜の泥などは、カワでいったん落として、そのあとシモナガシできれいに洗いました。お湯を沸かしたり、みそ汁を作ったり、ご飯を炊いたりするのは家の中のおくどさん（カミクド）で行います。鍋や釜をきっちりとのせて、下からわらを燃やして調理します。冷蔵庫がないので、作った料理を長い間置いておくことはできません。漬け物や干物といった保存食を作っておいて、少しずつ食べました。

3 どこでどうやって食器を洗うのかな？

- ・富江家では、一人ひとりが使うご飯茶碗・汁椀・お箸は、飯台の自分の膳箱に入れて、食事の時には、自分の食器は自分で取り出して使います。ご飯は、一粒残らず食べて、最後にお茶で椀をすすいだ後飲み干して、自分の場所にしまします。万が一、食べ残したときはカワヤの川に流して水洗いしました。

4 どうやってそうじしたのかな？ゴミはどうした？

- ・ほうきで掃いて、ちりとりでゴミを取ります。畳の上や家の中を掃くものは「上用」、土間や家の外を掃くものは「下用」として区別します。板の間はぞうきんを固くしぼってふき、磨き上げました。垢の混じったお風呂の残り湯を使うと板がピカピカに光りました。ぞうきんは着物の古着で作られ、破れるまで使います。紙くずはお風呂やオクドサンで燃やして燃料にしました。今のようにゴミの回収はないので、すべて自分の家で処理しました。

5 どこでどうやって洗たくしたのかな？

- ・家の外で、カワヤの水をくんでタライに水を張り、洗たく板に布をこすりつけて汚れを落としました。布が傷まないよう注意しながら、汚れたところだけをしっかりと洗います。汚れがひどいときは、石鹼や灰部屋の灰を洗剤として使いました。おむつなどを洗った水は、ショウベンダメに流して、カワを汚さないように気をつけていました。カワヤにある洗濯機は2台目の物で（1台目は結婚祝いとして親戚から贈られたもので、水気を絞るローラーもついていませんでした。）、水道のない富江家では使いにくいものでし

た。洗った下水はカワには流さず、ショウベンダメに貯め、2・3日に1度、汲み取って畑にまきました。しかし、水道を引いた頃から、周辺の家も洗った下水をカワに流すようになり、カワは汚れ始めました。カワが汚れてくると、カワの水を生活に使わなくなり、お風呂の残り湯も直接カワに流すようになりました。

6 トイレはどこかな？家の外にも中にもあるよ。

- ・小便は、男の人も女の人も家の中の小便所でした。小便所は、玄関入ってすぐ右手の桶風呂（ゴエモンブロ）の近くにあり、小便は残り湯と一緒にショウベンダメに貯めて、2～3日に一度、外から汲み出して桶に入れて天秤棒で畑へ運んで肥料に使っていました。大便は、家の外にある便所（外便所）です。便は、汲み出して肥料として使いました。

7 お風呂はどんなふうに使ったのかな？

- ・事前学習で児童に、お湯を沸かすとはどういうことなのかをまず考えさせてください。蛇口をひねったり、ボタンを押したりするだけで湯が出てくるので、沸かすと言うこと自体が分からない子も多いと思います。
- ・富江家のお風呂は、滋賀県の湖北から湖東、湖南にかけて使われていた半蒸半温浴の風呂です。一般的に、湖北ではゴエモンブロ、湖東ではオケブロ（桶風呂）やゴエモンブロと呼ばれることが多いそうです。富江家では、この風呂のことをゴエモンブロと呼んでいました。
- ・桶風呂は、お湯の量は少なく、蓋や扉を閉めて桶内に蒸気をこもらせるので、冬場も十分温まった。少ない湯で入浴ができるので、風呂を沸かす燃料も労力も節約できます。さらに燃料を節約するために、日中は、タライに水をはり、太陽に当てて水温をあたためます。これをヒナタミズ（日なた水）と呼びました。隣近所2～3軒の家が、日ごとに、風呂を沸かす家を変えることで、風呂を沸かす燃料を節約する“もらい風呂”の習慣もありました。夕方から夜にかけて、風呂に入るのを待つ間、近所の人たちと世間話をするのは楽しいひと時だったそうです。
- ・10人以上の人が一度に風呂に入るので、残り湯は真っ黒だったそうです。風呂の残り湯は捨てずに、桶風呂や板間を拭くのに使いました。残りの湯は、小便と一緒に、ショウベンダメ（便槽）に貯めて、畑の肥料にしました。
- ・風呂の水をカワヤから運ぶのは、子どもの仕事でした。バケツで、10杯から12杯ぐらいを使いました。

この他にも

- ・暑さを和らげるために、よしず（すだれ）を窓辺につるして日光をさえぎり、風通しのよい日陰をつくりました。夕方、庭に水をまく（打ち水）と涼しく過ごせます。もちろん、うちわも使いました。暑いときは薄手で汗を吸う綿のランニングシャツを、寒いときは綿入れの暖かい服を重ね着します。エネルギーを無駄に使わない、エコな生活が基本です。
- ・テレビと電灯以外の電化製品はありません。一軒で使える電気量が少なく、一度に電灯をあちらこちらで灯すとヒューズがとぶので、あちらを消してからこちらを点けるということがありました。コンセントも一軒に数カ所しかありませんでした。
- ・次の「むかしの道具と生活」のシートを参考にしてください。